

NPO法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3

国分寺マンション B-03A

(FAX) 0237-67-7001

(HP) <http://japankatarinet.jp/>(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(振替) 00130-2-114808

2026. 7. 8 発行

ニュース

「山と湯と物語が出会うまち 菰野」へようこそ

廣田里咲（三重県菰野町 民話語りこもの菊）

菰野町は三重県北部に位置し、西側には鈴鹿山脈の雄大な山々が連なります。町の約半部分が鈴鹿国定公園に含まれている、豊かな自然に恵まれた町です。菰野町は令和 8 年度（2026 年度）に町制施行 70 周年を迎えました。皆さんのお手元に届いている「第 17 回全日本語りの祭り」の案内の左上には、地元の高校生がデザインをした 70 周年記念マークがあります。このマークには、菰野のシンボルである御在所岳（ございしょだけ）や、町名の由来となった真菰（まこも）、町の花であるコモノギクなどが描かれています。菰野町では、真菰にちなむ「真菰の会」、コモノギクにちなむ「こもの菊」という二つの民話会が活動しており、菰野に伝わる物語を今も大切に語り継いでいます。



三重県といえば、まず伊勢神宮を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。菰野町は伊勢神宮からは少し離れていますが、その神話につながる伝承が残されています。菰野が誇る御在所岳の名の由来です。およそ二千年前、倭姫命（やまとひめのみこと）が大和国（現在の奈良県）笠縫の宮から天照大御神の神霊を奉じて、伊勢へ向かったと伝えられています。その途中、菰野のあたりに仮の屯宮（とんぐう）を設けられたことから、この山は「御在所」、すなわち「神のおわすところ」と呼ばれるようになったそうです。二年前の全日本語りの祭りは奈良県で開催されました。倭姫命が奈良から伊勢へ向かった伝承を思えば、今年こうして菰野町で全日本語りの祭りを開催できることに、まるで神話の道筋をたどるような不思議なご縁を感じております。

御在所岳は標高 1,212 メートルを誇り、四季折々の自然を満喫できる菰野町のシンボルです。菰野町からは、御在所岳を含む鈴鹿セブンマウンテン（藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、御在所岳、雨乞岳、鎌ヶ岳、入道ヶ岳）を一望できます。さらに、御在所ロープウェイに乗れば山頂まで気軽に足を運ぶことができます。眼下には伊勢平野や伊勢湾が広がり、御在所岳ならではの奇岩や巨岩を間近に見ることができます。運が良ければ、国の特別天然記念物であるニホンカモシカに出会えるかもしれません。山頂から西を望めば滋賀県側へと視界が開け、天気の良い日には琵琶湖を眺めることもできます。天気が良く、空気が澄んでいれば、「富士見台」というところから富士山を見ることもできます。ぜひ菰野の自然を満喫していただければと思います。

皆さんがお泊りになる湯の山温泉は、そんな御在所岳のふもとにあります。湯の山温泉もまた、御在所岳の由来から少し時代は下りますが、古い歴史をもつ温泉です。養老二年（718 年）に発見された古湯で、1300 年以上の歴史を誇ります。傷ついた鹿が湯で傷を癒していたことから「鹿の湯」とも呼ばれ、温泉発見を語る伝説「鹿の湯」は今も語り継がれています。江戸時代には「菰野温泉」と呼ばれ、中部・東海地方を代表する名勝地として多くの人々が訪れました。文人たちも足を運び、文豪・志賀直哉は湯の山温泉の寿亭に滞在して短編『菰野』を執筆しました。寿亭に残る「水雲閣」は国登録有形文化財となっており、当時の趣を今に伝えています。

「湯の山」という名のとおり、菰野では山と温泉が暮らしのすぐそばにあります。そのことは地域に伝わる民話にもよく表れており、山を舞台にした話や温泉が登場する話も数多く残されています。このような菰野に伝わる物語の多くは、郷土史研究家であった佐々木一先生をはじめ、地域の方々の尽力によって記録され、受け継がれてきました。そして、10 年ほど前から「菰野町手作り民話絵本コンクール」が開催されており、未来に残そうという活動も活発です。どうぞ、菰野に伝わる様々なお話と共に、豊かな自然と温泉をお楽しみください。（ひろた・りさ）